草津 PA と連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想 (素案)

令和5年 月 草津市

## 構想策定にあたって

滋賀県南部の草津パーキングエリア(PA)周辺は、名神・新名神高速道路、山手幹線等の広域的な道路ネットワークに加え、医療・福祉・学術・産業等の様々な機能を有するびわこ文化公園都市があり、市内外から多くの人が訪れる恵まれた環境を有しています。

また、今後は新名神高速道路や山手幹線の延伸、平野南笠線の事業が予定されるなど、当該エリアの持つポテンシャルはさらに高まる見込みです。

これらのポテンシャルを最大限に活用することで、草津市をはじめとした滋賀県南部エリアの活性化 を推進するため、本構想を策定します。

## 対象エリアと上位・関連計画

本構想の対象エリアは、草津市 南部の草津 PA 周辺とします。

対象エリアに関連するまちづくりの上位・関連計画としては、「南草津エリアまちづくり推進ビジョン」と、「びわこ文化公園都市将来ビジョン」が挙げられます。これらの計画で示すまちづくりにおいて、「交流や回遊性」が求められています。



南草津エリアまちづくり推進ビジョン ― (令和3年度策定)

#### <目標>

大学・企業・地域の活力が 持続的にあふれだすまち

#### <基本方針>

〜大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携に よる魅力あるまちづくりの推進〜

#### <目標>

誰もが豊かな環境と利便性を享受し 安全・安心に住み続けられるまち

#### <基本方針>

~豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境形成 と地域主体によるまちづくりの推進~

#### <目標>

充実した都市空間・交通環境で多様な 交流が生まれるにぎわいのあるまち

#### <基本方針>

~びわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切 な都市機能の配置の推進~

### びわこ文化公園都市将来ビジョン -(令和4年度改定)

#### <将来像>

県内外の人々が**交流**する場 文化・芸術を創造する場 持続可能な社会へ**挑戦**する場 歴史とくらしを**紡ぐ**場 いのちと健康を**支える**場 コミュニティを**育む**場

#### <プラットフォーム<sup>1)</sup>>

#### ○移動の自由

- ・多様な移動手段により、誰もが「行きたい場所へ」 「行きたい時に」「自由に移動」できるエリア
- ・新たなモビリティの導入可能性を検討するエリア

#### ○理解の共有

- ・知りたい情報へ容易にアクセスでき、瞬時に情報が 共有・利活用されるエリア
- ・社会の変化や技術革新の進展に対応し、ICT および データの利活用を推進するエリア
- ・人と人とのつながりを大切にし、誰もが情報を発信・ 共有・利活用できるエリア

1)プラットフォーム:びわこ文化公園都市共通の課題であり、全ての将来像に関わる公共交通、施設間移動、バリアフリーといった「移動」に関すること、情報発信・共有、広報など「情報」に関することに対処するための基盤

## 現状(対象エリアのポテンシャル)

対象エリアのポテンシャルとしては、多様な施設(大学、企業、病院・福祉施設等)や人口の集積、広域道路 ネットワークである名神高速道路や県道等を含むことが挙げられます。

#### 施設立地

- ●立命館大学、龍谷大学、滋賀医科大学の3大学12学 部が立地し、2万人以上が在籍している
- ●びわこ文化公園都市内には15を超える製造・物流などの企業が存在し、半径2km圏内では約2万人が従業している
- ●滋賀医科大附属病院(災害拠点病院、指定)など、800 床を超える病床と多数の診療科が存在し、福祉施設も 集積している
- ●びわこ文化公園は年間約30万人、県立アイスアリーナは 年間約13万人、県立図書館は年間約2万人の利用があり、令和4年12月に滋賀ダイハツアリーナもオープンした
- ●高速道路を利用すれば、大阪へは1時間半弱、京都へは40分程度、名古屋へは1時間半程度である

## 

#### 人口

- ●約4.5万人が居住しており、大学の立地が多いため20代 男性の人口が多くなっている
- ●JR 草書駅、南草書駅の乗降者数は、県下1位、2位であり、 エリアには多くのJR 利用者が居住・滞在している



#### 交通

- ●名神高速道路草津 JCT~瀬 田東 JCT 間の交通量は約 12.3 万台/日となっている
- ●草津 PA 付近を平日 300 台 以上、休日 350 台以上の高 速バスが通過している





#### 防災

- ●広域道路ネットワークの 結節点である草津JCT がある
- ●立命館大学(BKC)は市 の防災輸送拠点として 位置付けられている
- ●草津 PA は国の「防災拠 点自動車駐車場」として 位置付けられている
- ●確認された活断層がない他、浸水リスクも低いなど、相対的に災害リスクが低い

## 現状(対象エリアの問題点)

対象エリアの問題点として、利便・交流施設の少なさ、慢性化した渋滞やそれによるバスの定時性低下などが挙げられます。

#### 施設立地

●対象エリアには、日常 的に利用できる飲 食・物販等の立ち寄り 施設、スーパー等の 利便施設、交流施設 が少ない

#### 防災

●びわこ文化公園都市 内に避難者や広域支 援部隊の支援機能の 位置付けが無い

#### 交通

- ●国道1号や南草津駅周辺〜対象エリア周辺の渋滞が慢性化している
- 朝夕を中心に道路渋帯こよりバスの定時性が損なわれ、 サービス水準の低下が生じている
- ●路線バスによる回遊性が低い
- ▼所要時間(びわこ文化公園都市→南草津駅方面)



## A例 ○ : 主要洗滞箇所 : ~20km/h : 20~40km/h : 40km/h~ 南草津駅 南草津駅 資料: 滋賀県渋滞対策協議会

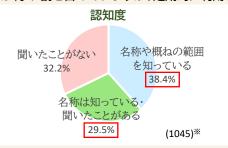
▼周辺の旅行速度

#### 市民の認知・利用状況

令和5年3月に、草津市在住の市民の方々から 3,000 人を無作為抽出し、対象エリアの認知度・利用経験や利用頻度・移動手段・滞在時間、問題点、必要だと思う機能等についてアンケート調査を実施しました。

#### びわこ文化公園都市の認知度・利用経験

びわこ文化公園都市の認知度については、名称や概ねの範囲まで知っている方、名称のみ知っている・聞いたことがある方を併せて約7割程度となっており、3割の方には認知されていません。利用経験については、利用経験がある方が約7割を占めていますが、定期的に利用している方は少なくなっています。





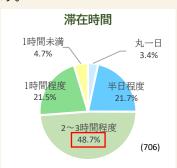
#### びわこ文化公園都市の利用頻度・移動手段・滞在時間

びわこ文化公園都市の利用経験がある方に利用頻度を聞いたところ、年数回程度と年 1 回以下で8割程度を占めており、利用頻度は少なくなっています。また、移動手段は、自家用車が大半を占めています。

利用の際の滞在時間は、2~3時間が最も多く、半日以下がほとんどを占めています。



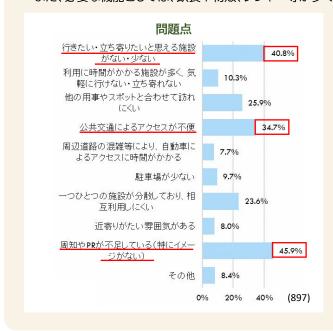




#### びわこ文化公園都市周辺の問題点・必要だと思う機能

びわこ文化公園都市周辺の問題点としては、「周知や PR が不足している」が最も多く、次いで「行きたい、立ち寄りたいと思える施設がない・少ない」「公共交通によるアクセスが不便」等が多くなっています。

また、必要な機能としては、飲食や物販、レジャー等が多くなっています。





※()内は有効回答数

## 解決に向けた方向性

現状と市民の認知・利用状況から、対象エリアにおいては、施設や交通インフラ等のハード面は充実しており、大学や企業に関連した多くの滞在者はいるものの、運営体制や交通環境等の課題により、連携や交流が少なく、エリアの持つ魅力やポテンシャルを最大限に活用できているとは言えません。そこで、上位計画を踏まえ、「にぎわい・活力」「安全・安心、防災」「交通・交流」の3つの視点から、当該エリアの持つポテンシャルと課題を整理し、連携拠点の創出による「解決に向けた方向性」として取りまとめました。

#### エリアの ポテンシャル

エリアの

課題

- ●約4.5万人が居住している
- ●立命館・龍谷・滋賀医科大学の3 大学12学部が立地し、2万人 以上が在籍している
- ●製造・物流をはじめ多様な業種 の企業が集積し約2万人が従業 している
- ●びわこ文化公園には年間約30 万人が来園している

# ■滋賀医科大附属病院をはじめ、800 床を超える病床と多数の診療科が存在している

- ■エリア周辺には多様な福祉施設 が集積している
- ●確認された活断層はなく、浸水などの災害リスクが低い
- ●広域な道路ネットワーク結節 点があり、救援活動や物資輸 送等、災害時対応の拠点となりえる

#### 安全·安心·防災

- ▼病院や福祉施設等、防災施設と 連携できる機能は多数立地して いるが、対象エリアとして避難者 や広域支援部隊の受け入れ要請 に対応できていない
- ▼JR 琵琶湖線を利用した通勤・通 学者が多いが、災害等による JR 不通時に代替の公共交通手段が なく、帰宅困難者の発生が危惧 される

- ●公共交通・高速道路ともに、大阪 へは1時間半弱、京都へは40 分程度、名古屋へは1時間半程 度の距離である
- ●草津 PA 付近の名神高速道路は 約12万台/日の交通量があり、 PA としての大きさは名神高速 道路でも有数である
- ●草津 PA 周辺には平日で 300 台以上、休日で 350 台以上の高 速バスが通過している

#### 交通·交流

- ▼朝夕を中心に国道1号や南草津 駅周辺の渋滞が慢性化し、周辺 都市への通勤・従業者によるマイ カー通勤に影響を与えている
- ▼朝夕を中心に道路渋滞によりバ スの定時性が損なわれ、サービ ス水準の低下が生じている
- ▼複数の事業者によりバス路線が 乗り入れているが、需要に対し て本数が限られており、バス車 両内が混雑している
- ▼路線バスによるエリアの回遊性 が低い

#### にぎわい・活力

- ▼日常的に利用できる利便施設、 飲食・物販等の立ち寄り施設や交 流施設が少ない
- ▼施設の利用頻度が少ない
- ▼来訪時の目的施設以外への立ち 寄りが少なく、滞在時間が短い
- ▼広域的な公共施設が多数立地 も、利用者数は伸び悩んでいる

解決の方向性

#### 連携拠点の創出

#### 「にぎわい・活力」の創造

## ▶連携、交流

施設間の連携と交流を促進し、多様な人材による エリアマネジメント<sup>2)</sup>を進める

#### ▶滞在、魅力

魅力あるサードプレイス
<sup>3)</sup>を設け、施設利用者の 滞在時間を拡大し、魅力 あるエリアの創出を進め る

#### 「安全・安心・防災」の充実

#### ▶広域支援

非常時の安全・安心を支える広域支援の要請への対応を進める

#### ▶リダンダンシー<sup>4)</sup>

広域交通・輸送のリダン ダンシーの確保により、 災害に強い都市構造の構 築を進める

#### 「交通・交流」の向上

#### ▶道路交通

公共交通の利便性向上により移動手段の転換を進め、交通混雑の緩和を図る

#### ▶公共交通

高速バス⇔路線バス⇔JRの利用環境の充実による公共交通の利便性の向上を図る

#### ▶エリア回遊

びわこ文化公園都市施設間の回遊性向上を図る

2)エリアマネジメント:地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み3)サードプレイス: 自宅(=ファーストプレイス)や職場・学校(=セカンドプレイス)とは異なる、居心地がよくくつろぐことのできる第三

4)リダンダンシー:

「冗長性」、「余剰」を意味する英語であり、自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

## 将来ビジョンと基本方針

連携拠点の創出による解決の方向性を踏まえ、対象エリアにおける将来ビジョンと基本方針を以下のように定めます。

## 将来ビジョン

滋賀県南部エリアの新たな玄関口として、交通環境が充実し、多様な主体による交流が生まれ、 その活力が広域に波及するにぎわいと安全・安心を実感できるエリア

## 基本方針

将来ビジョンの実現に向けて取り組む基本方針を次の3つのとおり定め、草津 PA と連携し、それぞれに沿った具体的な取組により、 にぎわいの創出、安全・安心の享受、交通環境の充実を図る



## 「にぎわい・活力」の向上

地域、大学、企業が交流し、地域外からの訪問者も集うサードプレイスにより にぎわい創出

- ●【連携・交流】エリアの住民、大学、企業の連携・交流を促進する機能の強化により、多様な人材が集 積・交流
- ●【滞在・魅力】エリアの玄関口形成(地域情報発信・立ち寄り機能の強化)により、びわこ文化公園都市を中心としたエリアの魅力向上・地域経済への波及

## 「安全・安心・防災」の充実

集積した医療・福祉、道路ネットワークを生かした安全・安心の享受

- ●【広域支援】医療・福祉機能やびわこ文化公園と連携し、草津 PA と一体となった広域的防災機能の強化により、非常時の広域の安全・安心が向上
- ●【リダンダンシー】高速バスを活用した広域公共交通のリダンダンシーの確保により、JR 不通 時の移動手段を確保

## 「交通・交流」の向上

新たな玄関口としての公共交通の利便性向上による、エリア及び 周辺の交通環境の充実

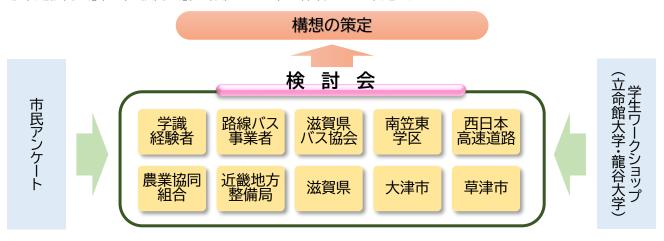
- ●【道路交通】駅および周辺道路に集中する交通量の削減・転換により、渋滞が緩和(公 共交通の定時性向上)、生活道路の安全性が強化
- ●【公共交通】路線バスから JR への利用環境の充実、高速バス活用(新たな移動手段確保)により、公共交通利便性・快適性が向上
- ●【エリア回遊】地域内回遊手段の確保による回遊性向上、エリアの活性化

8

5

## 構想の策定体制

本構想の策定にあたり、各分野の関係機関からなる「草津 PA と連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想策定検討会」(以下「検討会」)を設置し、以下の体制により策定を進める。



## 基本構想の実現に向けて

基本構想で示す将来ビジョンの実現のために、検討会等でいただいた下記ご意見を踏まえ、今後、基本計画において具体的な検討を進めてまいります。

## にぎわい・活力

- ●地域の交流機能
- ●大学間連携機能
- ●産官学交流機能
- ●びわこ文化公園エリアとの連携機能
- ●飲食、物産、レジャー機能
- ●地域情報発信機能、休憩機能

## 安全·安心·防災

- ●医療・福祉施設と隣接した地域・広域防災拠点空間機能
- ●災害時の高速バスでの輸送機能



## 交通•交流

- ●名神高速道路草津 PA と連携した交通ターミナル機能
- ●路線バス網の強化
- ●びわこ文化公園都市・周辺地域への路線バス・自動運転・MaaS<sup>5)</sup>などによる回遊手段の提供拠点機能



5)MaaS:「Mobility as a Service」の略。地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の 移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービ ス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。



草津市 都市計画部 都市地域戦略課

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目 13番 30号 TEL 077-561-6931 FAX 077-561-2486 Email toshichiiki@city.kusatsu.lg.jp